

- ① … 種目別天皇杯で優勝。成年男子は3位、少年女子は4位。～第77回国民体育大会
2年振り! 昌平高校が5回目の出場を決める～第101回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会
- ② … 第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」種目別天皇杯獲得記念
荻野清明・国体強化委員長と振り返る「栃木国体」 成年男子/長岡修コーチ
- ③ … 荻野清明・国体強化委員長と振り返る「栃木国体」 少年女子/堀達也監督
- ④ … 栃木国体3位記念対談 GKの継投策でPK戦を勝ち上がる～新海準選手と本山航大選手に聞く～
- ⑤ … 県北部を巡る Vol.1 ～熊谷市サッカー協会
- ⑥ … 座談会 WEリーグ、何が課題なのか? SFAとして、何ができるのか? Vol.2
- ⑦ … 大会記録●県内大会 2種・3種・4種・女子
- ⑧ … 大会記録●県内大会 シニア ●県外大会 1種・大学・3種
- ⑨ … 大会記録●県外大会 4種・女子
- ⑩ … 大会記録●県外大会 シニア・フットサル インフォメーション 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18雁ヶ音ビル204号室 Tel048-834-2002・Fax048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

種目別天皇杯で優勝。成年男子は3位、少年女子は4位 ～第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」

新型コロナウイルスの影響により、都合3年ぶりの開催となった国民体育大会。その第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」(10月2日～6日)は、埼玉県から成年男子と、今大会から正式種目となった少年女子の2カテゴリーで参加しました。

結果は、成年男子は見事3位に入賞し、少年女子は4位となりました。トータルで、種目別天皇杯優勝に輝きました(2004年の埼玉国体以来)。選手・スタッフの皆さん、本当にお疲れさまでした。そしてありがとうございました。これからもしっかりと伝統を積み上げていきましょう。(2ページから特集記事)

■成年男子

1回戦	埼玉県	0-0	宮崎県
		(2PK1)	
準々決勝	埼玉県	2-1	静岡県
準決勝	大分県	1-1	埼玉県
		(7PK6)	
3位決定戦	埼玉県	1-1	茨城県
		(6PK5)	

※優勝は大分県

■少年女子

1回戦	福島県	1-5	埼玉県
準々決勝	栃木県	0-0	埼玉県
		(5PK6)	
準決勝	静岡県	3-2	埼玉県
3位決定戦	埼玉県	1-2	鹿児島県

※優勝は東京都



成年男子 準々決勝 埼玉県 vs 静岡県



少年女子 3位決定戦 埼玉県 vs 鹿児島県

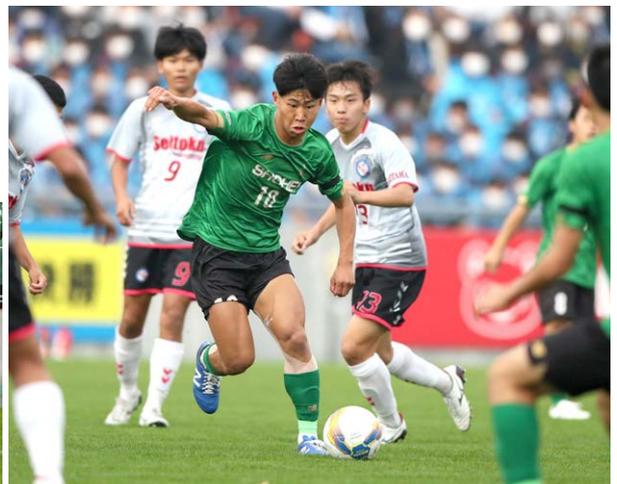
2年振り! 昌平高校が5回目の出場を決める ～令和4年度第101回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会

11月13日に「令和4年度第101回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会」の決勝が行われ、2年ぶりの優勝を目指す昌平高校と初の決勝に挑む東京成徳大学深谷高校が対戦しました。結果は、プリンスリーグ関東1部の首位を走る昌平高校が、東京成徳大学深谷高校の堅守を破り、1-0で勝利しました。

本大会1回戦の相手は近江高校(滋賀県)。全国優勝に期待しています。



優勝 昌平高校



決勝戦 昌平 vs 成徳深谷

第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」種目別天皇杯獲得記念 荻野清明・国体強化委員長と振り返る「栃木国体」

トップページでも紹介したように、栃木国体で成年男子3位、少年女子が4位と健闘してくれた結果、埼玉県はサッカー競技種目別天皇杯獲得となりました。この躍進を、国体強化委員長(サッカー競技)である荻野清明氏(浦和東高教諭)が各チームのスタッフと振り返ります。成年男子からは長岡修コーチ(アヴェントゥーラ川口)、少年女子からは堀達也監督(大宮武蔵野高校教諭)。奇しくも、今回のお二人は共に、荻野強化委員長の教え子とのこと(長岡氏は県立川口高校時代、堀氏は県立浦和高校時代)。ということで、ざっくばらんに、ときには辛辣に振り返り、かつ「ここから」を語っていただきました。(構成/広報委員・荒川裕治)

成年男子/長岡修コーチ(アヴェントゥーラ川口・代表) 継承と変革と、そして「思い」

荻野 今回、核となるチームとしてアヴェントゥーラ川口にお願いしました。引き受けてもらう際に「やってくれる!」と言ったものの、関東ブロック大会前は関東サッカーリーグ2部の下位に甘んじている状況でしたので、正直に言うところ「なんとか関東ブロック大会を突破してくれれば」という思いでした。

あとで聞いた話ですが、長岡さんの方から選手・スタッフに「埼玉の成年男子とは」、という話をしてくれたそうですね。私の思いも含めてだったそうですが、そこから選手たちに火が付いたようなことを伺いました。長岡さんは選手としても、国体に関わってくれたことがあったからですね(埼玉教員クラブ時代)。

長岡 そうですね。荻野先生の時代、私がいた時代などを継承する必要も感じています。ただ、変わっていかねばならないこともあると思います。そういう話はしました。

荻野 いろいろな形で試練がありました、サッカーの神様が微笑んでくれたと思います。

長岡 振り返ると、最後まであきらめないで、事前に立てた作戦を実行した結果でした。まずは関東ブロック大会ですが、2試合ともPK戦で勝利しました。確かに運もありましたが、裏付けもありました。

荻野 GK(ゴールキーパー)ですね。

長岡 リーグ戦と同様、スタメンは新海(隼)、控えに本山(航大)を予定していました。今回の準備の中で、PK戦を想定した練習をしていたところ、本山がよく止めるんですよ。GKコーチから「PK戦になったら本山で」という進言があったので、一つの作戦として考えていました。

トーナメントの戦い方として、PK戦に強いGKは必要ですね。勝利をたぐり寄せることができたのは、こういうことも予測して戦える強みがあったからだと思います。



長岡 修 コーチ

国体というのは、「埼玉」を背負って戦えるエキサイティングな大会

荻野 そういう強みは大きいですね。さらに守備陣を見ると福田選手(俊介。西武台高校→法政大→大宮アルディージャ他)がいます。彼の高さや強さ、そして冷静さはスーパーでしたね。彼の存在は、ギド・ブッフバルト(元ドイツ代表・元浦和レッズ)と同じでとにかく相手のクロスを跳ね返してくれました。

そしてキャプテンの小林選手(秀征。元U-15日本代表)と桜井選手(潤人)の二人でカウンターから点を取るというパターンがありましたね。1-0で勝てる力を持っていました。相手が関東1部でも、本大会ではJFLのチームとも対戦しましたが、全てのプレーヤーが

堂々とプレーしていたことに驚かされました。

長岡 千葉(プリオベッカ浦安中心)が一番強かったですね。選手たちからは「負けた大分(ヴェルスパ大分)よりも、千葉が」という声が多かったですね。いや、大分も選手一人ひとり上手かったですけどね。

荻野 前年の話をしておきますが、昨年の成年男子は県大学選抜で挑み、関東ブロック大会を突破してくれました。吉田さん(弘氏・尚美学園大学サッカー部総監督)が地元大学の選手を集めていいチームを作ってくれましたが、三重国体は新型コロナウイルスで中止になってしまいました。本当に残念でした。

国体というのは、「埼玉」を背負って戦えるエキサイティングな大会です。今回は、大学生のセレクションを行っていただきました。一人でも入ってきてくれれば、またそれがアヴェントゥーラにとってリクルーティングになればとも思っていました。ただ、アヴェントゥーラにとっては、自分たちだけの方がやりやすかったのではありませんか? そんな中でセレクションから、共栄大学の白倉くん(雄生)が入ってくれましたね。

彼は昨年のメンバーで、本大会に行けなかったという悔しい思いから参加してくれたんですね。

長岡 そうですね、社会人連盟と大学連盟にご協力を頂き、セレクションが行うことができました。その中で、大学より白倉くんをセレクトさせて頂きました。あと桜井くんも昨年のメンバーで、白倉くんとは共栄大学の先輩後輩という関係もあり、桜井くんがしっかりサポートしてくれました。

荻野 県内の大学にもいい選手はいるんです。母体となるチームがあって、そこに補強することができる。これが「成年男子」の役割だと思っています。

プロを目指すにもいろいろなルートがあっという

長岡 こういうことが縁となって、ウチに入ってもらい、さらにステップアップしてほしいですね。なかなか国体や関東サッカーリーグにJクラブのスカウトは来てくれませんが、「彩の国カップ」だと来てくれています。そういうチャンスはありますからね。

それで荻野さん、埼玉のサッカーを考えると、もっと「1種」が、社会人チームががんばらなければならない、注目されないといけないと思っています。いかがですか?

荻野 今、昌平高校から毎年Jクラブへ直接プロとして加入しています。それは本当にうれしいことです。ただ、プロを目指すにもいろいろなルートがあっというと思うのです。大学経由でもプロになれるプレーヤーは出ています。ただ、県内に関東1部、2部の社会人チーム3つくらいあり、さらに県1部あたりでサッカーを続けたプレーヤーがプロになってくれたらと、そういう人材が出てくれること



荻野 清明 委員長

も願っています。

長岡 千葉や神奈川、東京を見ていると関東所属はもちろん、都県リーグのチームでもJリーグを目指すところが多数あります。そういうところに埼玉との差を感じているところですよ。

荻野 そういう流れをアヴェントゥーラ川口には牽引してもらいたいものです。ですから、早く関東1部へ、そしてJFLへと駆け上がってほしいですね。

長岡 そのためにも練習環境は重要です。今回も荻野先生に動いていただき、高校の人工芝グラウンド、埼玉スタなどを練習で使わせてもらいました。ありがたいことです。

荻野 そういうサポートしかできなくて申し訳ないです。来年は青木町公園も使わせてもらえるといいですね。

とにかく長岡さんは、選手経験者で埼玉県選抜も経験していることが大きい。その思いをしっかりと伝えていってもらえれば、クラブも発展してくれるのではないのでしょうか。

長岡 振り返るとですね、先輩たちに「社会人チームは大学生には負けんじやないぞ」と植え付けられた時代が思い出されます(笑)。

埼玉県は「フェアプレーで日本一を目指す」を体現

荻野 そういえば、関東ブロック大会の千葉戦で、0-1で負けているにも関わらず、アディショナルタイムに時間を使ってGKを交代したじゃないですか。あれは同点にするつもりでの交代だったんですよね。0-1なのに、アディショナルタイムを使ってPK戦要員である本山くんが入ってきて会場中が驚いたんですよ。もちろん、その後で同点にしたから、そちらの方に驚きましたが(70分+5分!)。

長岡 あの場合にはですね、GKコーチから「(GK)代えないの?」って言われたんですよ。そうしたら他のスタッフは「えっ、もう時間でしょ?」と顔を見合わせて。でも、もともとPK戦にもつれたら勝つということが前提でしたから「最後のプレーに賭けよう」という話になったんです。確かに追い付いたらPK戦になるんですからね。

荻野 そうなんですよ。あれには驚かされました。それで最後には勝つんだから。

あと、アドバイザーとして柱谷さん(幸一氏。元日本代表FW)が

入って「地元の皆さんに愛されるチームにならないといけない」と強調されているじゃないですか。だから、サッカーがとてもクリーンなんですよ。例えばアフターで行ってしまったら、とにかく高校生のようには謝っているんですから(笑)。審判にも一切文句は言わない。それはとてもいいことですね。だから、千葉戦では最後の最後で、サッカーの神様が微笑んでくれたと思うんです。埼玉県は「フェアプレーで日本一を目指す」じゃないですか。体現してくれましたよ。

長岡 選手たちは集中してプレーするようになりましたし、確かに文句は言わなくなりましたね。柱谷さんの影響は大きいんです。

大会後に柱谷さんが、関東リーグくらいのチームだと5泊6日なんて一緒にいることは難しいことで、とてもいい経験ができた。日頃できない指導とかもできましたからね。地域の皆さんに感謝しようとか、シーズン前には言っている話ですが、こういうところで改めて話してもらおうとまた違います

あと、選手たちからは「少女女子の応援に行けないんですか?」という声もありましたよ。

荻野 そういって、会場が近ければありですよ。うれしい話です。—来年は鹿児島です。そういう交流があるのはいいですね。ぜひ、検討していただきたいものです。なかなか話が止まりませんが、本日はここまでとさせていただきます。お忙しい中、ありがとうございました。



成年男子 1回戦 埼玉県 vs 宮崎県



■成年男子

役職	氏名	所属
監督	福田 俊介	アヴェントゥーラ川口
コーチ	筒井 剛毅	アヴェントゥーラ川口
コーチ	柱谷 幸一	アヴェントゥーラ川口
コーチ	長岡 修	アヴェントゥーラ川口
GKコーチ	野口 桂祐	アヴェントゥーラ川口
トレーナー	山村 茉桜	アヴェントゥーラ川口
トレーナー	大竹 洸太	アヴェントゥーラ川口

No.	位置	氏名	所属
21	GK	新海 隼	アヴェントゥーラ川口
8	MF	巒田 登	アヴェントゥーラ川口
2	DF	大野 慶彦	アヴェントゥーラ川口
4	DF	小羽根公貴	アヴェントゥーラ川口
14	DF	臼倉 雄生	共栄大学体育会サッカー部
15	DF	中村 祐隆	アヴェントゥーラ川口
9	MF	横山優太郎	アヴェントゥーラ川口
7	MF	吉田 翔太	アヴェントゥーラ川口
6	DF	大久保龍成	アヴェントゥーラ川口
10	FW	小林 秀征	アヴェントゥーラ川口
18	MF	塩野 稜太	アヴェントゥーラ川口
5	MF	須崎 光将	アヴェントゥーラ川口
16	DF	土釜 走太	アヴェントゥーラ川口
11	MF	桜井 潤人	アヴェントゥーラ川口
12	GK	本山 航大	アヴェントゥーラ川口
3	DF	福田 俊介	アヴェントゥーラ川口

少年女子／堀達也監督 (大宮武蔵野高校教諭)

女子のこの年代での国体が始まり、育成そのものが成果へ

荻野 実は今年の4月、正式に監督に就任したんだよね。

堀 そうですね。ただ、今回のチームがU-13県トレセンとして立ち上がったところから任せていただき、そこから国体への準備は始まっていました。

荻野 あまりサポートできなくてすみませんでした。長谷川さん(暁雄氏・県女子技術委員長/久喜高校教諭)にお任せしっぱなしで、関東トレセンリーグを2試合見たのと、直前と現地とで。関東ブロック大会も見えない状況でした。改めて、これまでのチーム作りはどうでしたか。

堀 長谷川先生と私で、国体に向けた準備を始めました。2種年代の二人が3種年代のトレセンに関わらせていただくことになりましたが、我々大人の中で「トレセン」の意識が異なっていたこともあり、戸惑うこともあったことが正直なところでした。

ただ、プレーヤーたちはモチベーションを高く持って集まってくれていました。「トレセンというのはこういう感じ」、というのが伝わったのが3年経ってから。去年ようやくという感じでした。

以前のトレセンは普及目的もあったようで、各チームから最低一人は出してほしいというお願いをされていたようです。以前の状況を鑑みればそれも理解できます。ただ、国体という目標が設定された中で、普及ではなくトップトップの選手たちを伸ばそう、さらに強化へとシフトしていったということです。

しかし、ようやくプレーヤーたちにも理解してもらったかなと思っていたら、U-16になって県外に出ていくプレーヤーも多々いましたね。もちろん、そういうプレーヤーたちと関東ブロック大会で、本大会で出会えたことはうれしいことでしたが。

この経験を伝えていきたい

堀 U-16になってから、レッズレディースの選手たちに入ってもらいました。ここで融合ということになりましたが、プレーヤーたちのモチベーションの持って行き方には苦労しました。もう一つ、スケジューリングが難しかったですね。本当、これはやってみないとわからないという感じです。

もっといえば、昨年はU-16としてプレ大会が行われるはずでした。それもコロナ禍にあって開催が中止となってしまいました。そういうこともあり、プレーヤーを送り出していただけのクラブさんからとの打ち合わせが十分にできませんでした。関東トレセンリーグにあたって調整をお願いしたのですが、タイミングが遅く「もう入っているよ」と言われることが多々あり、ここは大きな課題となりました。もっと早め早めの確認をしなければなりません。

ただ、なかなか呼びたいプレーヤーを呼ぶことができなかったことで、逆にいろいろなプレーヤーを見ることができたのは収穫でした。やはり、試合に来てもらうことでトレーニング以外での彼女たちのことを見ること、理解することができましたから、悪いことではなかったですね。

トータルで振り返りますと、いろいろな経験を積むことができました、この経験を伝えていきたいものです。

荻野 長くSFAのトレセンに関わっていただいている中、堀さんにはいつかはバトンタッチして活躍してほしいと願っていました。

いろいろあります。男子も同じですが、自分のチームが勝つこと

が最優先だとか、自分のチームのプレーヤーが選ばれることが重要だと思っている指導者の皆さんには、少々発想の転換をしてほしいですね。他県の話で恐縮ですが、勝った負けたではなく、いい選手を輩出できたかどうか評価するなど、その価値観を変えていかなければならないと考えています。育成年代の指導者は、そのプレーヤーが17歳、18歳、場合によっては25歳になったときにどのように成長しているかで評価されるべきなのです。

選ばれなかった……悔しい。そんな思いは次のカテゴリーで見返してほしいのです。「ほーらね」って。ただ、いろいろな価値観があるということを知ってほしいと思っていますから、他のチームのプレーヤーと強度の高いトレーニングやゲームをするトレセン活動の機会はとても意義があると思っています。

「このプレーヤーが伸びるにはどうすればいいのか」

荻野 トレセンそのもの、国体そのもの。それぞれ、どういう意味があるのかを議論できる場を持たなければなりません。

そんな中、女子のU-16で国体が始まりました。育成年代ではありますが、タイトルを狙うという大会です。メンバーに入った、落ちた……まるでワールドカップの日本代表と同じです。入ったら入ったで短期間でチームを作り、挑まなければなりません。

反面、確かに「国体がなんなんだ」という声もあります。承知しています。ただ一生、今いるチームにいるわけではなく、時間とともに状況は変わり「移籍」ということもあるのです。プレーヤーは、その場に合わせた対応していかなければなりません。

国体って、今回の日本代表の森保一監督と同様、チームの監督がプレーヤーを選びます。コミュニケーションは必要ですよ。いずれにせよ、女子のこの年代での国体が始まったということは、育成そのものが成果につながると考えられます。

堀 関東ブロック大会を前にして、千葉とトレーニングマッチをしたのですが、そこで0-6で負けてしまったんです。関東トレセンリーグは悪い結果ではありませんでしたが、私もまずいなと思っていたら、帰りのバスの中で彼女たちも自分たちであれこれと話を始めていました。

関東ブロック大会、埼玉県は一発勝負でした。群馬を相手に勝たなければそこで終わりという組み合わせの中、私はかなりビリビリしていたと思います。正直、群馬がどう出てくるか、怖かったですよ。

結果的には勝ちました。群馬は今までと同じメンバーで、勝負に徹するというのではなくトレセンリーグでもやっていた「自分たちの」サッカーを貫いてきてくれました。そんな中、立ち上がり10分で先制できたこと、前半終了前にはサイドバックのプレーヤーがゴールを決めてくれるなど、練習で取り組んでいたことを形として表わしてくれました。また、少年女子のルールとして自由な交代というがあります。常にフレッシュな状況で勢いというか、パワーを持ってプレーしてくれたことは自信になりましたね。

ただ本大会で対戦した静岡、鹿児島は高かったですね。

「東京に勝って優勝しよう」

荻野 この年代はメンタルの起伏がどうしてもあるのですが、どうでしたか。

堀 プレーをされていてタイトなマークにあって、やりたいプレーをさせてもらえないというプレーヤーがいました。自由な交代ができますので、一度下げて、スタッフが付きっきりで対応するなどしましたが、一度落ちたモチベーションを戻すことはできませんでした。コーチン



荻野 清明 委員長



堀 達也 監督

グスタッフは男性ばかりだったということもあり、言葉の使い方やタイミングなど難しかったと思います。15歳、16歳の女の子ですからね。

以前、成年女子のスタッフとして帯同した経験があります。プレーヤーたちはレッズレディースのトップチームもしくはユースでもレギュラー。彼女たちはメンタル的にあまり起伏はありませんでした。今回の彼女たちを見ていて、だからこそ、トップのプレーヤーはトップでプレーできるのだと、改めて思いましたね。

—ということは、準決勝から3位決定戦にかけての切り替えも難しかったということでしょうか。

堀 そうですね。準決勝に進んだときに、これに勝てば決勝に進むことができるということは誰もが認識したことです。というのは、組み合わせが決まった時点で彼女たちと話をしたのは「東京に勝って優勝しよう」でしたから。

準決勝の静岡戦、相手をリスペクトし過ぎたと反省しています。相手チームのストロングポイントを消そうとして、いつもと違う形が入ったのですが、逆に自分たちの良さも消してしまいました。具体的に言うと、いつもは右サイドのプレーヤーを中央に置き、相手の出どころを潰したいと考えたのです。しかし、そのためにボールを奪ってからの相手ゴールに向かう推進力を失ってしまいました。また、私の迷いがプレーヤーたちに伝わったのか、思い切りの判断ができなくなりました。

実は相手の出どころ、ボランチの選手が元々埼玉のプレーヤーでした。今、JFA アカデミーにいます。

また朝の時点でそういう戦術的な判断をしましたが、私が直接伝えずにマッチミーティングに入ってしまったものですから、彼女たちのリアクションを確認することができなかったのを後悔しています。それも、途中でポジションを動かしたプレーヤーが、ポジションを替えたことで躍動してくれたものですから、余計にそう思っています。

それでも、後半に入って、0-2から追いつきました。相手のミスもあって追い込んでいきましたが、そこから勝たせてあげられなかったのは、自分の力不足だったと思います。

技術レベルは高い。課題はモチベーションのコントロール

堀 振り返ると、ポジションチェンジをすとか、パワープレーをすとか、試す時間がありませんでした。というか、これまでピハインドになる試合が無かったこともあります。

試合後、私も落ち込みましたが、彼女たちも落ち込んでいました。モチベーションはあきらかに低下していましたね。翌日、まだ3位決定戦があるというのに、クールダウンをしっかりとできなかったプレーヤーもいて……緊張の糸が切れたと思いました。

ですから、3位決定戦ではウォーミングアップを見ても、体が動いていないプレーヤーがいました。そのせいか、鹿児島のプレーヤーたちのパワーがあるプレーに引っかかってしまいましたね。それでもハーフタイムに檄を飛ばしたことで、最後までプライドを持って戦ってくれたと思います。

彼女たちは、技術的な能力は高いんです。ただ、気持ちのところ、モチベーションのコントロールは難しいですね。振り返ると、前大会の茨城国体でも4位（成年女子）。リバウンドメンタリティ、負けた後をどうするのか？ 何をさせるのか……。糧にしたいと思いますし、つなげていきたいと思っています。ありがとうございました。

荻野 本当にお疲れさまでした。初年度としては、よくやっていただいたと思っています。堀さんだけでなく、関わった皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

改めて、できるだけ早く関係する皆さんとミーティングをしたいと思っています。2024年には成年女子もあります。女子として、短い展望と長い展望、どちらも検討していかなければなりません。

そんな中で少年女子については、長谷川さんと堀さんを中心に話を進めていきたいと思っています。引き続きよろしく願いいたします。

—SFA として、しっかりと女子に対して取り組んでいかなければならないと思います。お二人ともありがとうございました。



少年女子 1回戦 埼玉県 vs 福岡県



■少年女子

役職	氏名	所属
監督	堀 達也	県立大宮武蔵野高校
コーチ	葉袋 広明	クーバーコーチング
コーチ	小穴 康朋	埼玉県女子トレセン
トレーナー	圓山 和也	入間テクニカル接骨院
総務	長谷川暁雄	県立久喜高校

No.	位置	氏名	所属
1	GK	井野 杏莉	ちふれAS エルフエン埼玉マリU18
2	DF	青田 望々	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
3	MF	秋本 佳音	三菱重工浦和レッズレディースユース
4	DF	伊藤 愛唯	ちふれAS エルフエン埼玉マリU18
5	MF	熊田 姫依	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
6	MF	石川 杏佳	ちふれAS エルフエン埼玉マリU18
7	MF	菅原 夏希	ちふれAS エルフエン埼玉マリU18
8	DF	澤野 翔夏	三菱重工浦和レッズレディースユース
9	FW	辻 あみる	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
10	FW	前原 嘉乃	三菱重工浦和レッズレディースユース
11	MF	高橋 光莉	三菱重工浦和レッズレディースユース
12	DF	伊藤 璃音	INAC 白岡 SCL
13	FW	茂木 未田	大宮アルディージャ VENTUS U15
15	DF	松家 ゆり	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
16	GK	寺本 唯香	大宮アルディージャ VENTUS U15

栃木国体3位記念対談 GKの継投策でPK戦を勝ち上がる ～新海隼(しんかい・しゅん)選手と本山航大(もとやま・こうた)選手に聞く～

関東ブロック大会2試合、本大会4試合という熱戦を通じて、5試合がPK戦での勝負となった埼玉成年男子。それも5試合中4試合は二人の「継投策」で勝利しました。二人は共に、関東サッカーリーグ2部を戦うアヴェントゥーラ川口の選手。その経緯から、社会人としてプレーし続けることの意義まで、幅広くお聞きしました。(聞き手/広報委員・荒川裕治)

—国体3位、改めておめでとうございます。お二人の連携で関東ブロック大会、そして本大会を勝ち抜かれましたね。今日はそのお話を伺わせてください。

—ですが、その前にお二人のことを教えてください。

新海 新海隼です。アヴェントゥーラ川口に入って、もう4年になります。高校卒業後、tonan前橋に入ったのですが、ケガをしたので地元の川崎に戻ることにになりました。高校のGKコーチに相談したところ、筒井監督(剛毅氏)が知り合いだったことから、シーズン途中の5月に入って、今に至ります。

本山 本山航大です。私は浦和の別所少年団の出身です。国際武道大学を卒業後、カンボジアへ行きました。そこでクラブスタッフを1年経験した後、GKとして2年プレーしました。このコロナ禍の影響で日本に戻り、川口に来ました。

「俺？」って感じでした(本山)

—ありがとうございます。ちなみにお二人とも、まずは高校時代に国体、トレセンの経験はありましたか？

新海 練習会には行きましたが、神奈川はJクラブの選手がメインでしたね。そうそう、三苦(薫。ブライトン・アンド・ホーヴ・アルビオンFC)がいましたね。ちょうど東京国体(2013年)のときです。一つは優勝しました。田中くん(碧。フォルトゥナ・デュッセルドルフ)やベルマーレにいる石原くん(広教)とかの代です。なので、国体というのは近い存在でした。あと、tonanにいたときの群馬の成年男子は、tonanとザスパ(クサツ群馬)の合同チームで活動していました。永井さん(雄一郎氏・元浦和など)がいて、愛媛国体は3位でしたね。

本山 まったく、関わっていなかったですね。高校が帝京だったことから、東京のチームはFC東京とヴェルディ中心で無縁でした。大学のときも千葉は関東サッカーリーグの2チーム(VONDS市原、プリオベッカ浦安)中心でした。国体はわからなかったですね。

—ありがとうございます。お二人とも、それぞれですね。さて本題に入りましょう。まず関東ブロック大会の神奈川戦になるかと思いますが、「継投策」で見事勝ち切りました。

新海 試合の流れの中で終盤になり「PK戦になるなあ」と思っていました。それなりにシュートを止めていたので、自分としては「このままいくぞ」という思いだったんですね。それが、交代ってことになったんです。

本山 こちらは「俺？」って感じでした。

—えっ、最初からこのトーナメントを戦うための戦術の一つとしてお聞きしていましたが？

新海 いえ、何も言われていませんでした。ですから、選手交代の交代ボードを見たとき、21が出ていて「俺なの？」と思いましたね。

いや、確かに臨時でGKコーチとして入ってもらった野口さん(桂祐氏)から「全員交代したら、もう一度交代で出ることができる」とは聞いていました。それは「戦術的に」とは言われていましたね。

でも、航大くんが止めてくれましたから、納得です。それからパターンになりましたね。

本山 確かに「5人交代したら、また入れる」というのは聞いていました。確かに選手層は薄かったですから(サブメンバーは5人)、そうしないとリフレッシュできなかったですね。

新海 脚がつっちゃ選手も多いですし(笑)。

本山 気持ちが折れる選手も多いです(笑)。だから、リーグ戦と違って35分ハーフってよかったですね。ちょうどいい時間でした。

新海 しかし、GKまで交代するって最終手段じゃないですか。びっくりしましたよ。ただ、前の週の紅白戦で、Aチームに航大くんが入って、僕はBチームだったんです。リーグ戦とは逆でして……でも、当日は僕だったんですね。

本山 まあ、どちらが出るかわからない状況でした。もともと私もサブとして準備しているわけではありませんから。

「神奈川に勝った時点で、代表に」(新海)

—お二人の実力は伯仲という感じなんですね。

新海 しかし、本大会を含めて、6試合中5試合がPK戦。ここまで、3位に入れるとは思っていませんでした。

本山 優勝を狙う、ではなくて。とにかく目の前の試合を一つずつ勝って行って、気が付いたら、という感じでした。

新海 そう、気が付いたら、でしたね。ただ、神奈川に勝った時点で「関東代表に」と盛り上がりましてし、その上で全国でも勝ちたいという気持ちになりました。

ただやはり千葉戦がターニングポイントでした。一方的に攻められる展開の中で、それこそ9割は我慢でしたね。で、失点したわけですが、何かが起こるだろうとは思ってました。そうしたら最後の最後で、FKのこぼれ球を決めて同点(70+5分に須崎光将選手のゴール!)

本山 どうしようもない展開だったね。こちらはFWじゃないし(笑)。負けを覚悟していた中で、最後の最後でやってくれました。劇的な同点。PKは「いけるでしょう!」。

新海 こちらに勢いがついて、チームが一つになりました。

本山 振り返るとチーム全員で寝泊まりすることはなかなか無くて。それが関東、全国でできたことは大きかったですね。

新海 仲間のいろいろなことを知ることができて、プラスになりました。

本山 ただね。試合に関してですが、6試合やって、5試合引き分けたわけですよ。勝ってはいないんですよ。

「誰よりも動かずに我慢します」(本山)

—また関東ブロック大会の話になりますが、本山選手の「3-0で勝つぞ!」。気合はすごかったですね。

新海 GKにとって、PK戦は主役ですからね。

—どう止めるとかは考えていたんですか？

本山 人によってですね。説明するのは難しいです。敢えて言うならば、誰よりも動かずに我慢します。

新海 信頼しています。

本山 でも、練習ではそんなに止めていないと思うんですよ。むしろ新海の方が上かなと。なんかスイッチが入らない、試合とは違うんですね。

—お互い、謙遜のし合いでしょうか。どうでしょう、お互いのプレーを評していただけませんか。

本山 自分にないものをたくさん持っていますね。キックは大きな武器。盗もうとしています。ただ、身体能力の高さは盗めませんね

(笑)。守備範囲は広いです。

新海 同じですね。持っていないものを持っています。1対1の出ていくタイミングはすごいですよ。「そこで手が出るんだ」ってプレーを見せてくれます。そういうところは取り入れて成長していきたいと思っています。

もっと成長したいですね。チームとしても、厳しい試合でも勝てるようになりたいです。

「まだ上手になりたい」(新海)

—「もっと成長したい」。いい言葉ですよ。なかなかサッカーを続けることができない人が増えているように思います。同世代の皆さん、年下の皆さんにサッカーし続けるためのアドバイスがあればいただけますか。

新海 25歳になりましたが、まだ上手になりたいと思っています。そういう気持ちが無くなったら辞めるときかもしれませんね。サッカーでお金をもらっているわけではありませんが、練習に費やすのは、わずか2時間……されど2時間なんです。どう濃くするか。正直、仕事が終わってからトレーニングに向かうスイッチの切り替えは難しかったですけれど、ようやく余裕が出てきました。学校のコーチをさせてもらっていますが、子どもたちが来てくれると励みになりますね。

本山 ただサッカーが好きで、目の前の試合に勝ちたいという気持ちだけで、ここまで来ました。サッカーそのもの……関わる仕事もトレーニングも好きなんです。「サッカーのためなら」と思うと苦になりませんね。

新海 この年齢で賞状をもらったりするってうれしいじゃないですか。

本山 チームとして入賞したり、逆にリーグの昇格・降格争いを経

験するなんて、なかなか味わえることじゃないです。

新海 サッカーから離れたら物足りなくなるんじゃないですか。刺激が足りないというか。だから、1年離れて、また戻ってくる人っていますよ。

本山 県の2部や3部でまたプレーする人いるよね。友人がプレーしているので、市民リーグも見たりしますが、楽しそうです。ただボールを蹴ること、みんなが集まることが楽しいんでしょうね。トップを目指さなくても価値があると思います。生涯スポーツという面でのサッカーが盛り上がってくれるといいですね。

新海 下のリーグから、上を目指そうというチームが出てきています。負けたくないですよ。

—来年は関東1部昇格を期待しています。また、国体は鹿児島です。こちらも期待しています。今日はありがとうございました。

本山・新海 ありがとうございました！



左から 新海隼選手、野口桂祐 GK コーチ、本山航大選手

県北部を巡る Vol.1 ~熊谷市サッカー協会

県南部に比べると、なかなか県全体のことはわからないものです。またそれぞれの地域で状況は違い、課題も異なります。近年、特に県北部では少子化によって環境が変わりつつあると聞かされました。柏悦郎・専務理事が育成の現場の声を中心に、伺って回ります。(司会・構成／広報委員・荒川裕治)

【参加者の皆さん】

黒澤三千夫 会長

飯野 明 理事長・SFA 理事

天沼 達也 副理事長(クマガヤ SC 代表)

田子 貴志 理事・市中学生連サッカー専門部専門委員長(市立富士見中)

関根 成紀 副理事長・少年部部长(成田フリーダム FC)

高橋 哲男 県少年連盟競技委員長・SFA 理事

柏 お忙しい中、ご参集いただきましてありがとうございます。6月に専務理事を拝命しました、柏です。日頃より、SFA に対してご協力を賜り、誠にありがとうございます。今回はよろしく願いいたします。

4種は8年で5チーム減、約300人減

—それではさっそくですが、少子化の現状をお聞かせいただけますか。

関根 4種の関根です。グラフを用意しました。2014年、熊谷FA内では16チーム、1018人が登録してくれていました。それが、チームの合併や活動停止があり、現在は11チーム、692人の登録となっています(男子チーム)。

この数年に関しましては、新型コロナウイルスの影響もあり、チームの活動そのものが無いという時期が長くありました。ちょうど年度が切り替わる時期に活動していなかったこともあり、「始められなかった」という子どもたちもいたようです。その後、感染拡大が収まる中で活動を再開し、本当にサッカーをしたいという子どもたちが入ってきてきているという感じです。

—驚きなのは、旧妻沼町です。5チームあったのが、今は1チームですか！

天沼 指導者の年齢が高くなり現場に出られなくなったという話もありますし、少子化で子ども自体が少なくなっている状況です。市内の小学校、中学校を見ても、今後合併が進む予定です。人口推移から見れば、やむを得ないと思っています。

柏 今年の4種リーグのプログラムを確認しますと、市内からは10チームのみがエントリーしていますね。

関根 6年生がゼロというチームがあって、4種リーグには不参加と聞いています。

天沼 全員移籍した、という話もありましたね。

高橋 指導者の問題です。子どもが被害者になっていますね。子どもが少なくなったら合併したものの、意見の相違から解散ということもありました。

あと市内での様子を見ると、スクールが増えていきます。サッカーはやりたいたいけど、試合はいいかな、という感じでしょうか。

登録せずにスクールでサッカー

飯野 体力づくり、習い事感覚でしょうか。

高橋 親は楽かもしれませんね。私もスクールをやっていますが、



関根成紀氏

チームには入りたくないという声も聞きます。

天沼 当番や送り迎え……いろいろありますからね。その中の要因の一つとして、小学校の先生がサッカーに、少年団に関わらなくなったということもあると思っています。実際、負担は大きいですし、情熱も無ければ続けられません。今、関わっている皆さんも、年を重ねて無理はさせられませんね。

柏 先ほどの妻沼の話ですが、子どもたちはどこでサッカーをしているのでしょうか。

天沼 旧市内のチームや太田(群馬)に行っているようです。地域で活動しているスクールはあり、見た目ですが50~60人は参加しているようです。

柏 サッカーを楽しむ場を奪われた、ということではないんですね。

天沼 そのようです。その後、中学のサッカー部、クラブユースのチームで続けている子どもも多いようですから。ただ、登録してくれていないので、その活動そのものはあまり見えないですね。

柏 フットサルはどうなんですか？

天沼 チームとして強くないと出ていけない、という状況ですね。すでにフットサルはレベルが上がって「遊び」ではなくなっています。実際、今年も江南南が県代表としてパーモントカップに出場して全国大会3位。なかなか一緒にはできませんね。

それでも、ちょっとした草サッカーの大会があればいいのですが、公式戦が多くなり登録が厳しくなったことで、サッカーの環境が変わったと思っています。

—登録していただける範囲の中でしか、確認できないのですね。では、次に3種・中体連の現状をお聞かせください。

田子 よろしくお願いたします。現在、市内16校中12校にサッカー部があります。どの学校も、1学年ごとにチームを作るということはできませんね。以前ならば、1学年20人くらい、3学年だと50人くらいで活動していたものですが。

新人戦は合同チームゼロ。でも、1年生大会は合同チームがありました。

柏 単独は3チームだけでしたね。

土日はくまびあを拠点としたトレーニングを

田子 令和7年(2025年)からは、部活動が土日は社会教育へ移行しますよね。二重登録はできないので、クラブチーム化するのは難しいでしょうか。

天沼 くまびあで集合してトレーニングするのはどうですか？ 熊谷市協会としてサポートできればいいと思います。

田子 先頭を切っていく人がいないんですよ。

天沼 社会体育になるのであれば、協会がバックアップしていかなければいけませんね。

飯野 土日のみ、「クラブ」として活動するとか。

天沼 毎日やりたい？ 土日のみ？ 保護者の意見を含めて、やる範囲でできるといいですね。

—市協会さんがバックアップしての活動は、ぜひお願いしたいですね。

柏 そうですね。あと熊谷はラグビーが盛んで、埼玉ワイルドナイツが優勝して目標が身近にあると思います。中学には各少年団で活動していた子どもたちが入ってくれるのですが、すでに小学校時代に序



高橋 哲男氏

列が決まったりして、下の方だと他の部活に行ってしまう子も見てきました。運動能力の高い子どもたちの様子はいかがでしょうか？

昔、よく浦和高校のラグビー部の先生から「サッカーやっている子じゃないと、(ラグビー) ボールを蹴れないから」と聞かされたものです。

田子 身体能力が高い子がラグビー、というのはありますね。サッカー部に所属しながらラグビーをしているという子はいますし、基本的に上手いです(中体連は、同校内での部活駆け持ちは可能)。

天沼 ラグビーリーグワンのチームのどこのスタンドオフ(背番号10番をつけている選手。チームの司令塔)も、だいたいサッカー経験者。どういう種目でも、サッカーをしていた子が活躍してくれるのはうれしいものです。

田子 そんな中で今後、部活動の取り組みが難しいですよね。全国大会は無くなるのでしょうか？

柏 それはないですね。サッカーは中体連とクラブで住み分けができています。全中に関しては、クラブ連盟に登録していないチームには門戸を開けていますから。

どう子どもたちをイキイキさせるか

天沼 もう少し、トレセンや選抜チームに目標があってほしいですね。一生懸命なのは中体連ですが、また、クラブだと人数の制限があるから「中体連に行く」でもいいと思います。

柏 クラブ登録のBチームは中体連の大会に出てもいい、ということもないですからね。

天沼 移籍がちゃんとできればいいのですが。クラブで試合に出られない選手が中体連のチームに移籍してチャンスを与えてもいいと思うんですよ。

以前は登録制度が違い、二重登録ができていましたから、あの頃は子どもたちがイキイキしていたような気がします。

飯野 一人ひとりの能力を大事にしたいのであれば、陸上競技のように個人登録にすればいいんですね。

天沼 JFAに個人登録をして大会ごとにエントリーできるようになるといいのですが。

柏 日本は学校体育がしっかりしていますから、その形態は合わないですね。また、中体連ですとサッカー部の子も陸上の大会には出場できるよう、日程が配慮されています。

飯野 最少人数が多いサッカー、ラグビーは苦勞しますね。

天沼 フットサルも……別なスポーツですね。

田子 フットサルから来た子、うちにはいますよ。足元の技術はしっかりしています。ただ、フィジカルコンタクトは苦手ですね。

天沼 フットサルができる中学校の体育館がありませんからね。そういうことは進言できないものなののでしょうか。またフットサル部ができて、そこからサッカーへということも考えられます。

フットサルができない？ フットサル部が鍵を握る？

柏 えっ、フットサルなら、普通に授業でやっていたよ。

天沼 それはさいたま市だからできると思いますよ。他市ではできないと思います。

黒澤 大里(旧大里町)ではできませんか？ ネットを張ればいいのか。

高橋 (熊谷市立) 勤労者体育センターはOKですけどね。

天沼 「市町村の壁」があるんですよ。さいたま市の取り組みを全国的に紹介してもらえるといいですね。

—可能になれば、フットサルやサッカーをする子は増えると思いますか？

天沼 思いますね。



飯野 明氏



田子 貴志氏

柏 しかし、どうしてダメなんでしょうね。

天沼 体育館ではボールを蹴ってはいけません、ということが続いているからです。理由としては、壁に穴が開くとか窓ガラスが割れるとか。

—検討したいところですね。ではお待たせしました。3種のクラブの現状はいかかでしょうか。よろしく願いいたします。

天沼 市内にはクマガヤSCとレジェンド熊谷の2つがあります。クマガヤSCは創設して25年、現在は132名。埼玉県U-15リーグの1部を戦っています。レジェンド熊谷は15年目を迎え、現在96名。県クラブリーグにいます。リーグ的に見ても、棲み分けができています。周辺では、FC行田が無くなるなどありますが、熊谷の2クラブに関しては、人口的に見て現状維持ができています。



天沼達也氏

あと女子を見ると、クマガヤSCライラックと熊谷リリースカサブランカがあります。こちらは微増、という感じでしょうか。また昨年度から、ちふれASエルフェン埼玉が熊谷をホームにしました。今年から、くまがやドームでスクールを始めるなど活動を始めました。ここからいい方向に波及してくれると思っています。

—男子にもいい影響を及ぼすでしょうか？

天沼 多少ですがいい影響は起こしていくと思います。

もう一つ、私からよろしいですか。リーグ戦についてです。

3種でリーグ戦が進んだことはいいことなのですが、逆に「固定化」されつつあるように思います。3年間しかない中で「ここまでしか上がれないのか」と。県の2部にいても、なかなか関東リーグまでは難しいということです。限界があることでモチベーションが低くなっているようです。上のリーグを目指す、チャレンジができる場がトーナメント方式などでできるといいのですが。

柏 3種での協議になると思います。申し訳ないのですが、SFAとしては、お答えできる立場ではないのでご容赦ください。……難しいですね。

黒澤 本日はありがとうございます。市内の人口を見ても、減ってきています。さらに下がると予想されています。合わせて、高齢化も見えてきている状況です。

ここ4年間で4,000人も人口が減っている中(197,243人~193,446人)、いかにサッカーを楽しんでもらえるかは大きな課題です。そのためにも、環境整備が大事だと思っています。くまびあ(旧熊谷市立女子高校)の人工芝グラウンドもありますが、現在、熊谷さくら運動公園の人工芝化の要望書も提出しているところです。また今日、話がありましたフットサルの拡充、そのためにも体育館利用の促進と進めていきたいものです。

今日はわざわざ、ありがとうございました。

柏 こちらこそ、ありがとうございました。来年は、国体の関東ブロック大会が埼玉で行われることになっており、熊谷でも成年男子の試合を開催させていただきますので、ご協力をお願いいたします。本日はありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。



黒澤三千夫氏



座談会

WEリーグ、何が課題なのか？ SFAとして、何ができるのか？ Vol.2

【参加者】

岡本武行 大宮アルディージャ VENTUS 監督 / SFA 評議員
渡辺典子 SFA 副会長 / 同女子委員長
柏 悦郎 SFA 専務理事 / 同ユースダイレクター

前回から始めた座談会の第2弾です。今回は大宮アルディージャ VENTUS にお伺いし、岡本武行監督にお話を伺いました。NTT 関東の選手時代から、大宮アルディージャの一員である岡本監督は、SFA 評議員の一人でもあります。ご自身として、クラブとしての女子サッカーへの「思い」を聞かせていただきました。(司会・構成 / 広報 荒川裕治)

「次は女子だ」

—まずは、大宮アルディージャとして、女子チームの VENTUS を立ち上げまでの経緯をお聞きしておきたいと思います。意外と知られていない、クラブと女子サッカーとの接点からお願いできますか。

岡本 まずは2010年、今のちふれ ASエルフェン埼玉さん(当時は AS エルフェン狭山 FC) が、当時の「なでしこリーグ」の1部に昇格することになり「より成長するために協力してほしい」というご相談を受けて、ご協力をさせていただくことにしました。大石(裕弘氏・現、普及部長)が監督として参画しました。その翌年、佐々木則夫さん(現、JFA 女子委員長、大宮アルディージャシニアアドバイザー)が監督を務めた「なでしこジャパン」がワールドカップで優勝して、クラブ内では「次は女子だ」と検討するようになりました。

その後、元井さん(淳氏・FC 越後妻有 GM 兼監督)や、渡邊さん(現、ザスパクサツ群馬 GK コーチ)が大宮アルディージャから参画しました。また、JFA には「なでしこジャパン」のコーチングスタッフとして中村順さん(現、ヴァンフォーレ甲府ヘッドオブコーチング)、岡本隆吾(現、大宮アルディージャフィジカルコーチ)を送り出してきました。

参画する中で女子サッカーが厳しい環境で行われていることを知り、クラブ内ではどのように関わっていけばいいのかを考えてきました。スクールの中に女子クラスを作ったり、普及部に女性指導者を雇用したりと女子サッカーを広げていきたい、関わっていきたくて進めていたのです。

—SFAの女子トレセンにもご協力をいただいていた。前述の大石さんや佐藤さん(勝彦氏。前 SFA 事務局長 / 現、アカデミーダイ

レクター)にはお世話になりました。

岡本 直近では、佐々木さんが副学長となった十文字学園がチームを立ち上げ(FC十文字 VENTUS)、なでしこリーグへ参入するのをサポートしてきました。2部まで昇格したところ、WEリーグが発足することになり、FC十文字 VENTUS を母体として大宮アルディージャも女子チームを持つことになったというのが、流れですね。

Jリーグとしても各クラブに女子チームを持ってほしいという要請はしていましたから、いいタイミングだったと思います。

柏 WEリーグになってからは、昨年の開幕戦(INAC神戸レオネッサ vs 大宮アルディージャ VENTUS)をテレビで観たくらいなんです。レッズレディースとは、「男子中学生と」と練習試合をしてもらったこともありましたが。

渡辺 私は以前から、なでしこリーグの副審や第4の審判を担当させていただいていましたから、近くで拝見していました。

岡本 そうなんです。私もFC十文字 VENTUS 時代から関わりはありましたが、中心になったのは佐々木さん。今回チームを立ち上げるにあたり、ほとんどの選手は外から来てもらいましたから、イチから作っていくという感じでした。一緒にやっていく中で、監督はS級(ライセンス)を持っていないといけないという規則ができたこと、また初年度はどうなるかわからないことから、私が監督になった次第です。

「選手たちはみんな誠実」

—いろいろな形で関わりながらも、実際に女性選手を指導するのは初めてだったと思います。いろいろなことに驚いたり、発見があったのではないのでしょうか。

岡本 彼女たち、選手たちはみんな誠実です。エルフェンさんを協力していた時代でも思ったことですが、サッカーに取り組む姿勢が違うんですね。厳しい環境の中で、ここまでサッカーを続けてきたからでしょうか「サッカーのために」という思いを強く感じています。

練習に入る前のウォーミングアップから入念なんです。1時間かける選手もいて、よく飽きないなって思うこともありましたが(笑)。

また、いろいろなチームから来て、また年齢も幅広い中ではありますが、それこそ年齢関係なくコミュニケーションを取っているんですね。その思いというのは、このチームを成長させたい、WEリーグを成功させたいという気持ちからなんです。

—指導者としては、選手たちの動向が新鮮に映るんじゃないですか。

岡本 比較になってしまいますが、男子はどちらかというと指導者に依存しがちですが、女子は自立していますね。それに明るい！誰もが「みんなのために」と積極的に行動するんですね。試合の記録から外れた選手たちって、悔しいと思うんですけど、献身的なんですよ。積極的、献身的な姿勢は改めて大事だと思わされましたね。

繰り返しになりますが、選手たちは苦勞してきたわけなんです。逆に言えば、少々のことではめげない、メンタリティの強さを持っています。だからこそ、このプロ化の中で中長期的な視点を持って、女子サッカーの裾野を広げていかなければならないと考えています。

WEリーグそのものの認知度を上げる

—さて、2年目に入りましたが、1年を終わっての課題や収穫について伺えますか。

岡本 シーズンに入ってしまうと現場に集中しましたので、周りを見る余裕はありませんでした。振り返れば、集客の面ではもっとやれることは多々あったかと思っています。



岡本 武行氏

—具体的には？

岡本 WEリーグとしては、1試合平均5,000人の入場者数を目指しました。その中で VENTUS としては2位(平均2,279名/10試合)ではありましたが、届きませんでした。確かに多くのファン・サポーターの方に来ていただきましたが、全体としても私たちとしても、決して満足できる数字ではありませんでした。もっとWEリーグそのものの認知度を上げていかなくてはならないと考えています。

—とはいえ、集客数2位という結果は評価できるものではないのでしょうか。

岡本 男子チームのサポーターの皆さんが、よく観に来ていただきました。感謝しています。本来ならば勝って喜んでいただきたかったのですが、3勝しかできなかったことは残念でした。引き分けが多かったですね(2021-2022シーズンは3勝9分8敗で9位)。

—今シーズン、意識されていることはどんなことでしょうか。

岡本 まずサッカーのレベルを上げることです。個人として、チームとして成長していかなければいけません。もう一つ、先程も話をしましたが、認知度を上げることです。集客を意識していきたいと考えています。

実際、選手たちは地域の皆さん、サポーターの皆さんと「関わりたい」という気持ちを強く持っています。ただ、コロナ禍にあってできなかったわけです。本当は、皆さんのところに出ていきたくなんです。それでも、昨シーズンを戦ったことで、肌感覚ではありますが、少しずつ知ってもらえているような気がしています。VENTUS というチームを知って、観に来てもらう。そして、また「観に行きたい」と思ってもらうために、私たちは試合で勝たなければいけませんし、楽しんでいただけるイベントを開催していかなければならないと思っています。

日本のサッカーの成長は女子サッカーがキーに

—先日は、男女合同でファンフェスティバルを開催されましたね。

岡本 女子の方が積極的でした。ファンの皆さんも、男女両方応援してくださっています。それだけに触れ合ういい機会でした。

また、「WE ACTION DAY」として、埼玉県男女共同参画推進センターにご協力をいただいて「ジェンダー」を学び、その中でも「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」について、大宮北中学校と大宮武蔵野高校にお邪魔してグループワークをしました。私にとっては初めての学びで、「気づき」がありました。選手たちはこの「アンコンシャス・バイアス」などをよく知っていて、選手たちと一緒に考えようと促すと、子どもたちが一生懸命に考えてくれたことが印象的でした。

これから、日本のサッカーそのものが成長するには、女子サッカーがキーになるのではないのでしょうか。

渡辺 監督から「WEリーグを成功させたい」というお言葉を聞き、大変うれしく思っています。チームを勝たせることも大事ですが、チームのみんなと成功させようとするのは本当に大事です。

岡本 ぜひ選手たちに聞いていただきたいのですが、これまで大変な時期を過ごしてきたと思います。Lリーグと呼ばれていた頃、盛り上がりましたが続かなかったという時代がありました。今回のWEリーグがスタートするにあたり、特に年長の選手たちは未来へ向けてより良くしようという意識は高いです。いい環境、リーグそのもののいい発展……選手たちからはパワーを感じますね。

柏 アカデミーの選手たち、または高校生や大学生から見て、目標ができましたね。



渡辺 典子氏

岡本 高校とかからもトレーニングに参加してもらえようになりました。送り出してくれた高校の先生からは「(選手たちの)目標が明確になった」と言ってもらったこともあります。実際、トレーニングでは一生懸命に取り組んでくれています。

ただ、WEリーグを見たことがない、という選手が多いですね。これは課題だと思います。VENTUSも、まだU18がなく、来年度から立ち上げるのですが、地域の子どもたちをいかに成長させていくかを考えなければならぬといけませんね。

渡辺 そういえば、U15の全国大会出場、おめでとうございます。

岡本 ありがとうございます。

柏 また先日、11/3に小学三年生を対象にした「JFA ガールズフェスティバル」を開催しました(@SFAフットボールセンター)。ぜひ、そういう場にも参加していただきたいですね。

ユースダイレクターになってから、女子のトレセンを見るようになりましたが、本当に彼女たちのレベルは高いんです。小学生年代で多くの女の子たちがサッカーを始めてくれるのですが、中学になると一気に登録者数が減ってしまうんです。このWEリーグが子どもたちの目標になれば、多くの子どもがサッカーを続けてくれるでしょうし、またやってみようという子どもが増えてくれると思います。

リフティングなんてお手のもの、という女の子も増えてきました。4種リーグを見ても、男の子に負けないでプレーしてくれていますから、将来が楽しみなんです。

男子とは違う、魅力を

岡本 可能性のある子どもたちは多いと思います。埼玉県にはWEクラブが3つもあります。他にそんな県はありません。サッカーできる環境はよくなりつつあるのですから、みんなで育てていきたいですね。

女子を指導するようになって思ったことがいくつかあります。選手たちは上手いなと。左右、差がないくらいにしっかり蹴ります。技術は高いですね。次に「ひたむきさ」。去年、これを感じていたら、男子が今年のキャッチフレーズにしました。あとはコレクティブ。組織的なサッカーをするんですよ。だから、ゲームが切れない、止まらないんです。男子とは違う、そういう魅力が伝わってれば、心をつかめるのではないかと思います。

渡辺 審判をしていると思うのは、ファウルがないんですね。審判がいらぬくらいです。そこが女性らしさで、男子とは醍醐味が違うんですよ。

岡本 そう、イエロー(カード)が出ないんですよ。プレーがクリーンです。それでいてボールがタッチラインを出ないし、技術的に高い。でも厳しさや激しさはあるんです。そういうプレー、観てほしいですね。

だから、きっかけ作りなんです。そして「また来たい」と思ってもらえるかどうか。そのためには勝利を。そして、サッカーそのものの質を上げていかなければいけませんね。

—やはり認知ということが大きな課題ですね。さて、岡本監督からSFAへ要望がありましたらお願いします。

岡本 クラブで展開している活動を広げていただきたいですね。今、県内にWEクラブが3つある中、一般のひとたちから見ると、それぞれの情報はそれぞれのホームページを見るなどして、拾っていくしかありません。ぜひSFAからも発信してください。どうしても、各クラブからのみですと、限定されてしまいます。SFAからの発信であれば、信頼度も高いのですから。試合以外のこと、WE ACTION DAYについて、SDGsへの取り組みなどを紹介していた



柏 悦郎氏

だけると、県民の皆さんにより知ってもらえる機会が増えると思っています。もちろん、お互いにやれることがあれば一緒をお願いします。

渡辺 来年度に向けて、SFA女子委員会としてのホームページを立ち上げようと思っています。当然、その中ではWEクラブの皆さんのご協力も必要です。また、女子サッカーをより多くの皆さんに知ってもらうためにも、冊子の作成の準備にも入ることになりましたので、よろしくをお願いします。SFAとしても、女子サッカーの底辺拡大、そして大きな発展に向けて寄与したいと考えています。

岡本 いいですね。ぜひ、よろしくをお願いします。

あと、サッカー環境についてです。どのチームも、大会に参加して「勝ちたい」と思うことは自然なことだと思います。ただ、そうではなくJFAに登録せずに同好会的にサッカーを楽しんでいる子どもたち、学生もいます。そういう人たちを巻き込むという考えはないでしょうか。

また、中学校や高校の部活動に外部指導者として一般企業で働くサッカー経験者の方が出向くことも良い取り組みだと思います。民間企業に関わってもらい、勤務時間内でそういった取り組みができ、協力してもらった企業を表彰すれば、ステータスが上がります。そういう広がりができるのが、サッカーだと思います。

コミュニティを作ることが大事

渡辺 先日、浦和で0-45のレディースフェスティバルが開催されました。勝ち負けのない大会で、途中にはウォーキングサッカーの紹介もはさみました。ペビーカーを引いてきてくれるんですよ。参加賞は西区のレタス！ 皆さん、楽しみながらサッカーをしていました。

岡本 競技サッカーじゃないところですよ。

渡辺 先ほどの認知については、そういうイベントに選手が来てくれて交流してくれたら、試合に来てくれるようになるのではないかと思います。

柏 結局、財布を握っているのは奥さんですからね。奥さんが「(スタジアムに)行こう」と言えば、みんな来てくれるようになりますよ。

岡本 そういう交流はやっていきたいですね。登録は別にして、コミュニティを作ることが大事。草サッカーでいいんですよ。いいアイデアをもらいました。

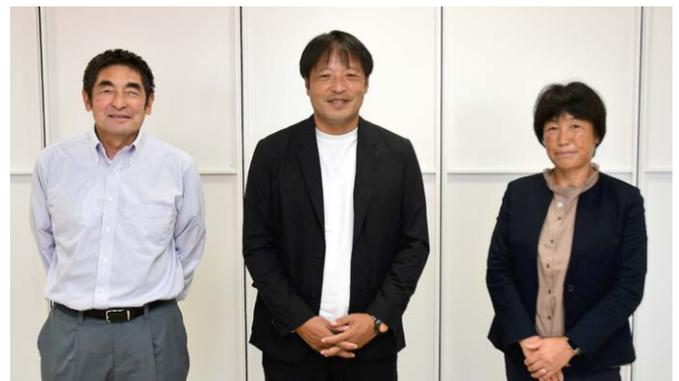
まずサッカーを好きになってもらうことからですよ。そういうイベントに絡ませていただきたいと思いますし、もっともっと高校や大学とも連携できれば、広がっていくと思います。

柏 長い時間、ありがとうございました。連携、交流については、ぜひお願いします。先ほど紹介した各種ある「フェスティバル」には、日程を調整してぜひ参加していただきたいと思っています。

また来年に向けて、3/8には国際女性デーに合わせて設定された「JFA女子サッカーデー」となっていますので、埼玉としてイベントを企画したいと思っています。さらには「JFA Magical Field Inspired by Disney」が始まりました。好評のようです。埼玉県でも開催したいと思っています。ご協力をお願いします。

岡本 こちらこそ、よろしくをお願いします。

—本日はありがとうございました。今シーズン、期待しています。



シニア

2022年度埼玉県O-40サッカーリーグ(1部)

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	FC西武台	31	10	1	0	34	5	29
2	SOL TODA	30	10	0	1	37	7	30
3	セレソン所沢シニア	28	9	1	1	32	4	28
4	与野シニア	18	6	0	5	23	18	5
5	FC浦和シニア	15	5	0	6	11	23	-12
6	クマガヤSC	14	4	2	5	10	13	-3
7	川口シニア	13	4	1	6	14	14	0
8	FCサンシンシニア	13	4	1	6	11	13	-2
9	VAMOS鳩山	12	4	0	7	12	31	-19
10	越谷シニア	10	3	1	7	12	24	-12
11	東春シニア	8	2	2	7	5	15	-10
12	吉見	1	0	1	10	5	39	-34

2022年度埼玉県O-50サッカーリーグ(1部)

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	クマガヤSC	30	9	3	0	22	1	21
2	FC浦和	30	9	3	0	23	3	20
3	セレソン所沢	27	8	3	1	19	3	16
4	川口シニア	21	6	3	3	14	5	9
5	パルスFC	17	5	2	5	16	16	0
6	VAMOS鳩山	17	5	2	5	8	9	-1
7	SFC	15	4	3	5	21	10	11
8	越谷シニア	15	4	3	5	18	13	5
9	NTTシニア	12	3	3	6	7	21	-14
10	川越シニア	11	1	8	3	5	7	-2
11	上尾シニア	9	2	3	7	9	23	-14
12	新明SC	6	1	3	8	9	23	-14
13	市高クラブ	4	1	1	10	4	41	-37

2022年度埼玉県O-60リーグ戦

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	パルス	30	9	3	1	24	5	19
2	ベアーズ	25	7	4	2	17	5	12
3	浦和GP	23	6	5	2	14	10	4
4	サウスフレンズ	19	5	4	4	10	10	0
5	FSC	14	4	2	7	9	13	-4
6	比企FC	18	3	9	1	7	6	1
7	ポラリス	18	6	0	7	13	20	-7
8	OKT FC	10	3	1	9	11	20	-9
9	春越	12	2	6	5	14	14	0
10	OKG	6	0	6	7	4	20	-16

2022年度埼玉県O-65リーグ戦

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	シリウス	25	8	1	1	36	5	31
2	エルmanos65	23	7	2	1	19	10	9
3	FC DREAM	21	6	3	1	18	8	10
4	トライアングルス	12	4	0	6	8	12	-4
5	チームあらかわ	4	1	1	8	8	25	-17
6	EASTワラビーズ	1	0	1	9	4	33	-29

大会記録●県外大会

1種

2022年度(第56回)関東サッカーリーグ2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
2	東京国際大学FC	34	10	4	4	38	19	19
8	アヴェントゥーラ川口	17	5	2	11	17	22	-5

フェアプレー賞 東京国際大学FC フェアプレーポイント5

【個人表彰】

■得点王 金田 奎人(東京国際大学FC) 12得点

■アシスト王 矢野 元太(東京国際大学FC) 8アシスト

■ベストイレブン

DF 石井偉理亜(東京国際大学FC)

MF 條 洋介(日立ビルシステム)※浦和レッズユース~東京国際大学

FW 金田 奎人(東京国際大学FC)

樋口 航大(東京国際大学FC)

大学

JR東日本カップ2022 第96回関東大学サッカーリーグ戦 1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
2	東京国際大学	39	11	6	3	39	15	24

JR東日本カップ2022 第96回関東大学サッカーリーグ戦 2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
10	城西大学	15	3	6	11	31	35	-4

2022年度 第1回関東大学サッカーリーグ Norte 1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
2	共栄大学	41	13	2	3	19	16	23
3	平成国際大学	37	11	4	3	36	11	25
5	獨協大学	29	8	5	5	39	21	18
6	尚美学園大学	20	6	2	10	13	24	-1
7	埼玉工業大学	19	5	4	9	16	27	-11

2022年度 第1回関東大学サッカーリーグ Norte 2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	駿河台大学	43	14	1	1	62	6	56
2	埼玉大学	39	12	3	1	41	9	32
3	東洋大学川越	30	9	3	4	45	25	20
4	文教大学	26	7	5	4	38	15	23

自治体

第49回関東自治体職員サッカー選手権大会

10月22日~24日 山梨県

1回戦 川口市役所 2-2 東京消防庁 (5PK4)

準々決勝 さいたま市役所 4-0 甲府市役所

川口市役所 2-0 山梨県庁

準決勝 さいたま市役所 2-0 練馬区役所

川口市役所 0-0 鎌倉市役所 (3PK5)

決勝 さいたま市役所 1-0 鎌倉市役所

※さいたま市役所が優勝

3種

関東U-15リーグ 1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
5	FC LAVIDA	31	9	4	5	34	23	11
6	大宮アルディージャ	28	9	1	8	24	27	-3
7	浦和レッズ	17	5	2	11	26	50	-24

関東U-15リーグ 2部B

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
3	クラブ与野	39	12	3	3	43	17	26
5	GRANDE FC	28	8	4	6	25	27	-2

2022年度第34回高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権関東大会

11月5日～19日 関東各地

●Aブロック

1回戦	大宮アルディージャU15	0-0	クラブドラコンズ柏 (5PK3)
	FC多摩JY	3-2	坂戸ディプロマツ
	三菱養和SC巣鴨JY	1-0	FC深谷
	STFC	2-2	クマガヤSC (0PK1)
	草加Jr	0-2	FC町田ゼルビア
2回戦	大宮アルディージャU15	1-0	クラブドラコンズ柏
	三菱養和SC巣鴨JY	2-3	クマガヤSC
3回戦	大宮アルディージャU15	1-2	FC多摩JY
	クマガヤSC	5-1	ヴァンフォーレ甲府
代表決定戦	FC多摩JY	0-2	クマガヤSC

●Bブロック

1回戦	浦和レッズジュニアユース	2-1	CAアレグレ
	クラブ与野	1-0	FCトリプレッタ
2回戦	浦和レッズジュニアユース	1-2	川崎フロンターレU-15
	クラブ与野	2-3	三菱養和SC調布JY

●Cブロック

1回戦	ワセダクラブForza02	3-2	カムイJr
	つくばFCジュニアユース	0-3	GRANDE FC
	プレジールSC	0-0	フォルトナU-15 (3PK5)
2回戦	ワセダクラブForza02	1-0	GRANDE FC

●Dブロック

1回戦	FC LAVIDA	4-0	FOURWINDS FC
	東松山ベレーニアSC	1-8	鹿島アントラーズ
2回戦	FC LAVIDA	2-2	鹿島アントラーズ (5PK3)
	FC LAVIDA	3-2	湘南ベルマーレU-15
代表決定戦	FC LAVIDA	1-2	柏レイソルU-15

※クマガヤSCが関東第7代表として本大会に出場する

4種

2022フジパンCUP 第46回関東U-12サッカー大会 in 山梨

8月27日、28日 ぐんぎ平スポーツ広場 第1サッカー場

●予選リーグ

Dパート	大宮アルディージャ	1-0	バルケFC
	大宮アルディージャ	0-0	足柄FC
※大宮アルディージャは2位			
Eパート	USC	0-6	浦和レッズ
	バディーSC	0-0	浦和レッズ
※浦和レッズは1位			
Gパート	前橋ジュニア	1-2	レジスタFC
	パロン	0-4	レジスタFC

※レジスタFCは1位

●1位トーナメント

1回戦	浦和レッズ	0-1	鹿島アントラーズつくば
	レジスタFC	2-0	ジェフ千葉
準決勝	鹿島アントラーズつくば	2-1	レジスタFC

※優勝は鹿島アントラーズ

女子

第44回関東女子サッカー選手権大会 兼

皇后杯 JFA 第44回 全日本女子サッカー選手権大会関東予選

9月3日～19日 群馬県各地

1回戦	日テレ・東京ヴェルディメニエーナ	6-0	大東文化大学
2回戦	SEISA OSAレイア湘南FC	3-0	武蔵丘短期大学シエンシア
	順天堂大学	0-1	東京国際大学
準々決勝	FCふじざくら山梨	1-2	東京国際大学
準決勝	東京国際大学	0-1	早稲田大学
3位決定戦	SEISA OSAレイア湘南FC	0-2	東京国際大学

※優勝は東洋大学。上位7位が本大会に出場する

第34回関東レディースサッカー大会 兼

JFA 第34回全日本O-30女子サッカー大会関東地区予選会

11月12日、13日 SFAフットボールセンター

1回戦	八千代ボニット	0-4	FC楓昂Lifelong
2回戦	横須賀シーガルズレディース	2-2	FC楓昂Lifelong (2PK3)
準決勝	FC楓昂Lifelong	0-7	大和シルフィード98
3位決定戦	FC楓昂Lifelong	0-2	FCマミーズ

※優勝は大和シルフィード98。FC 楓昂 Lifelong は4位。上位4チームが本大会に出場する



FC 楓昂 Lifelong vs 八千代ボニット

第26回関東女子ユース(U-18)サッカー選手権大会 兼

JFA 第26回全日本U-18女子サッカー選手権大会関東予選

10月8日～16日 神奈川県スポーツセンター

1回戦	オルカ鴨川FC U-18	0-6	ちふれASエルフェン埼玉U-18
	INAC東京レオンチーナ	0-6	浦和レッズレディースユース
2回戦	日体大SMG横浜	0-1	ちふれASエルフェン埼玉U-18
	ジェフ市原・千葉	2-1	浦和レッズレディースユース (延長)
準決勝	日テレ・東京ヴェルディメニエーナ	2-1	ちふれASエルフェン埼玉U-18
5位決定戦	河内SCジュベニール	1-2	浦和レッズレディースユース
	茨城フットボールアカデミー	0-4	浦和レッズレディースユース

※優勝は日テレ・東京ヴェルディメニエーナ。ちふれASエルフェン埼玉U-18は3位。上位5チームが本大会に出場する

第31回関東高等学校女子サッカー選手権大会 兼

第31回全日本高等学校女子サッカー選手権大会関東予選

11月12日～20日 茨城県内

1回戦	花咲徳栄	2-1	幕張総合
	十文字	-	本庄第一(棄権)
2回戦	日本航空	3-0	花咲徳栄
5位決定戦	花咲徳栄	0-1	霞ヶ浦
7位決定戦	花咲徳栄	0-1	暁星国際

※優勝は十文字高校。上位7チームが本大会に出場する

第18回関東高校女子サッカー秋季大会

10月22日～30日 太田市運動公園サッカー・ラグビー場他

1回戦	藤沢清流	2-1	川口市立
	昌平	2-0	関東学園大学付属
2回戦	昌平	3-0	甲府商業
準決勝	昌平	1-1	八千代松陰 (5PK3)
決勝	流通経済大学柏	3-1	昌平

※昌平は初出場で準優勝

JFA U-15女子サッカーリーグ 2022

●前期

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
2	浦和レッドダイヤモンズレディースジュニアユース	15	5	0	2	18	7	11
6	INAC白岡SCレディース	7	1	4	2	6	11	-5

●後期

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
2	浦和レッドダイヤモンズレディースジュニアユース	18	6	0	1	25	5	20
3	INAC白岡SCレディース	13	4	1	2	8	12	-4

第27回関東女子ユース(U-15)サッカー選手権大会 兼 JFA 第27回全日本U-15女子サッカー選手権大会関東予選

10月29日～11月6日 清瀬山運動公園他

1回戦	ちふれASエルフェン埼玉マリU-15	4-1	小美玉フットボールアカデミー
	クラブ与野レディース	3-1	フォルトゥナVogel U-15
	大宮アルディージャVENTUS U15	9-1	エストレーラFC境メニーナ
	1FC川越水上公園メニーナU-15	0-3	横須賀シーガルズMEG
2回戦	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	2-1	ちふれASエルフェン埼玉マリU-15
	クラブ与野レディース	0-2	スフィード世田谷FCユース
	日体大SMG横浜U-15 Biene Aoba	0-4	INAC白岡SCLレディース
	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール	0-1	大宮アルディージャVENTUS U15
準々決勝	ジェフ市原・千葉U-15	0-1	INAC白岡SCLレディース
	大宮アルディージャVENTUS U15	0-0	SEISA OSALレリア湘南FC U-15 (1PK4)
準決勝	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	2-0	INAC白岡SCLレディース

※優勝は日テレ・東京ヴェルディメニーナ。上位8チームが本大会に出場する

シニア

JFA 第10回全日本O-40サッカー大会

11月5日～7日 藤枝市民グラウンドサッカー場他

●一次ラウンド・グループD

SOL TODA	1-0	北海道オッサンドーレ札幌40
SOL TODA	2-1	羅針盤倶楽部NAGOYA
SOL TODA	0-0	三菱重工長崎シニア

●決勝ラウンド

準決勝	いわきシニアFC	0-2	SOL TODA
決勝	藤枝フットボールクラブ	1-0	SOL TODA

※優勝は藤枝フットボールクラブ

2022年度 JFA 第23回全日本O-60サッカー大会関東地区予選会

11月19、20日 埼玉スタジアム第2グラウンド他

●予選グループ・B組

横須賀アズール60	2-0	埼玉シニア60
埼玉シニア60	2-1	習志野台クラブシニア
埼玉シニア60	4-0	群馬FCレタドレス

●順位決定戦

3位決定戦	埼玉シニア60	0-1	ドリーム水戸シニアFC
-------	---------	-----	-------------

※優勝はPET60(東京都)

JFA 第17回全日本O-70サッカー大会関東地区予選会

11月19、20日 神奈川県立スポーツセンター

●予選リーグ・Bブロック

埼玉シニア70	0-3	墨東70
埼玉シニア70	3-0	山梨シニア70
群馬FC70	1-0	埼玉シニア70

●順位決定戦

5位6位決定戦	栃木大昭サッカークラブ	2-0	埼玉シニア70
---------	-------------	-----	---------

※優勝は墨東70(東京都)

フットサル

第18回全日本大学フットサル大会

8月26日～28日 岸和田市総合体育館センター

準々決勝	東海学園大学ユングブレッター	0-4	東京国際大学サッカー部
準決勝	大阪成蹊大学フットサル部	6-2	東京国際大学サッカー部
3位決定戦	東京国際大学サッカー部	0-5	多摩大学フットサル部

※優勝は大阪成蹊大学フットサル部

JFA 第28回 全日本U-15フットサル選手権大会関東大会

11月19日、20日 日環アリーナ栃木

●一次ラウンド・Aブロック

IFC LS BANDIT	9-1	バンディエラ常陸太田
IFC LS BANDIT	9-2	NIKKO SC ジンガ

●決勝ラウンド

1回戦	IFC LS BANDIT	3-3	フーウガドルすみだウイングス
		(8PK9)	

※優勝はPSTC ロンドリーナU-15

インフォメーション

「JFAガールズフェスティバル2022 in SFAフットボールセンター」開催

11月3日、U-9の少女を対象にした「JFA ガールズサッカーフェスティバル2022in SFAフットボールセンター」を開催しました。今年は小学3年生のみを対象として募集し、県内各所から50名の選手が参加してくれました。

運営は、山崎茂雄 FA コーチを中心に4種委員会と女子委員会、技術委員会が連携して行い、昨年に続き久喜高校女子サッカー部の皆さん、そしてミスノ株式会社からも協力をいただき実施することができました。

参加した選手は、コーチたちの話を真剣に聞きながら、ドリブルやシュートを目的とした各トレーニングを行い、最後は、初めてあった選手同士がチームを組み、楽しく試合を行いました。

また、参加した選手の保護者からは「日頃は、男子の選手が多いチームで活動しているため、このようなイベントに参加できることを親子で楽しみにしていました」「今後もこのような機会を設けていただきたい」という意見を伺うことができました。次回も各委員会と共に協力しながらフェスティバルを開催していきたいと思えます。関係者の皆さん、ご協力いただきありがとうございました。

(4種技術委員長・鳴島吉和)



各種別のリーグ戦が終了し、次年度の昇格・降格を懸けたプレーオフが佳境を迎えています。来季のJFL昇格をめざす「全国地域サッカーチャンピオンズリーグ・決勝ラウンド」が11月23・25・27日の3日間、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催され、プリオベッカ浦安、沖繩SVがJFL昇格を決めました。埼玉県勢は出場していませんでしたが、運営に尽力いただいた県関係者の皆さま、お疲れさまでした。

新型コロナウイルスが第8波の感染拡大となっています。サッカーシーズンは続いています。日増しに寒さが厳しくなる季節、くれぐれもご自愛ください。(藤田)

編集
後記